

ヘルペス感染症



ヘルペスとは？

「ヘルペス」は、ヘルペスウイルスというウイルスが皮膚などに感染することによって、赤いブツブツ(発疹)や水ぶくれなどの症状が出る皮膚の病気です。人間に感染するヘルペスウイルスは8種類が知られていますが、代表的な病気は、口唇(こうしん)ヘルペス、帯状疱疹(たいじょうほうしん)、水ぼうそうです。

ヘルペスウイルスは、ほとんどの人が感染するウイルスです。また、症状が治まっても、体からは消えず、神経に潜んでいます。そして、過労や病気などで免疫力が低下すると再び活性化し、症状が出てきます。したがって、日常生活においては、体のウイルスが暴れださないように、体調を崩さないことが大切です。

治療の中心は、ウイルスを抑える薬です。早めに飲んだり、塗ったりするほど効果がありますので、早めの受診がポイントです。また、効果が出るまで時間がかかることもあるので、医師の指示通りきちんと飲むことが大切です。

口唇ヘルペス

唇やその周囲に小さな水ぶくれができる病気で、単純ヘルペスウイルスが原因で起こります。

別名、「熱の華(はな)」とか「風邪の華(はな)」などと呼ばれます。風邪をひいた時などにできやすいからです。



口唇ヘルペスの特徴¹⁾

	口唇ヘルペス
発症年齢	幅広い年齢(20~30代までに約半数の人、60代までにほとんどの人が感染)
感染の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 人との接触によって感染する(症状が出ている時、感染力が高い) 感染力は強く、直接患部に触れる他にタオルや食器等を共用することでも感染する 感染しても発病しないことも多く、免疫力が低下した時に発症することがある
症状	<ul style="list-style-type: none"> 唇やその周りに赤い小さな水ぶくれ 軽いかゆみやほてり、痛みなど 水ぶくれはかさぶたとなり、通常は2週間程度で皮膚症状は治まる 前触れとして、口の周りがピリピリ、チクチク、感じる
再発するか？	<ul style="list-style-type: none"> しばしば再発する

口唇ヘルペスの薬

ウイルスを抑える薬を飲んだり、塗ったりします。再発(過去に医師の診断を受けたことがある)の場合は、市販薬で対応することもできます。ただし、広い範囲に症状が出たり、7日間使用しても良くならない場合は、皮膚科を受診しましょう。市販薬はいずれも「第一類医薬品」ですので、薬剤師のいる薬局でお買い求めください。

ウイルスを抑える薬

- 再発を繰り返す方は、症状の前触れが出た時の対応を医師と相談しておくとい

(主な薬)

医療用飲み薬…ゾビラックス、バルトレックス、ファムビル など

医療用塗り薬…ゾビラックス、アラセナA など

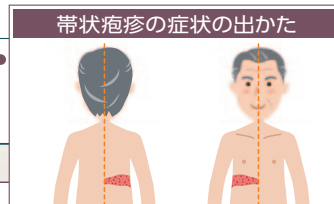
市販の塗り薬…アクチビア軟膏、ヘルペシア軟膏・クリーム、ラクリシア軟膏、アラセナS

水ぼうそうと带状疱疹

水ぼうそうと带状疱疹は、同じヘルペスウイルス(水痘・带状疱疹ウイルス)で起こります。このウイルスに初めて感染した時には、水ぼうそうになります。そして、水ぼうそうが治ってもウイルスは神経の中に潜んでいて、免疫力の低下した場合に带状疱疹として再発します。

水ぼうそうと带状疱疹の特徴¹⁾

	水ぼうそう	带状疱疹
発症年齢	多くはお子さん	幅広い年齢(特に50代以上)
感染の仕方	<ul style="list-style-type: none"> くしゃみや咳などで飛んだウイルスや、空気中に漂っているウイルスから感染する 水ぶくれができる1~2日前から、全ての水ぶくれがかさぶたになるまで人にうつす力がある 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体内に潜んでいた水ぼうそうのウイルスが原因 他の人にうつすことはないが、水ぼうそうにかかったことのない人にはウイルスが感染し、水ぼうそうの症状があらわれることがある(まだ水ぼうそうにかかっていない人には、近寄らないように)。
症状	<ul style="list-style-type: none"> 37~38℃の熱 全身に小さな発疹(頭や顔から出ることが多い) 発疹は水ぶくれとなり、かゆみを伴う 水ぶくれは2~3日でかさぶたになり、かさぶたは1~2週間とれる 	<ul style="list-style-type: none"> 発疹、水ぶくれ(体の右側か左側のどちらかの片側だけに、神経に沿って帯状(図参照)にできる) 強い痛み 前触れとして、神経痛のように、神経がピリピリ、チクチク感じることがある 通常は、2~3週間で症状がなくなるが、痛みだけが持続することもある(带状疱疹後神経痛)
再発するか?	<ul style="list-style-type: none"> 一度かかると免疫ができるため、通常は二度とかかることはない 体の免疫力が落ちると「带状疱疹」として再発 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんど再発しない 再発は全体の1%くらい



水ぼうそうの薬

お子さんの場合、軽い症状であることがほとんどですが、まれに、皮膚の細菌感染や脳炎などが起こる場合もあります。いったん熱が下がったあと再び熱が出る、皮膚が赤くはれ上がるなどの症状が出た場合は、早めに受診しましょう。

ウイルスを抑える薬	<ul style="list-style-type: none"> 発疹が出てから2日以内に飲むと効果的(主な薬)ゾピラックス、バルトレックス など
かゆみを抑える薬 熱を下げる薬	<ul style="list-style-type: none"> 症状に合わせて処方されることがある

水ぼうそうの予防ワクチン

病原性を弱めた水ぼうそうのウイルスを用いたワクチンを接種すると、自然の水ぼうそうに感染した場合と同じ免疫効果が得られ、水ぼうそうの発症を予防したり、発症しても症状を軽くします。このワクチンは1歳から受けることができます。

带状疱疹の薬

ウイルスを抑える薬	<ul style="list-style-type: none"> 発疹が出てから5日以内に飲むと効果的(主な薬)ゾピラックス、バルトレックス、ファムビル など
痛みや炎症を抑える薬	<ul style="list-style-type: none"> 痛みや炎症がひどい場合に処方される 腫れや痛みを抑えるために塗り薬を使うこともある(主な薬)各種消炎鎮痛薬の塗り薬 コンバック、スタデルム、ベシカム、フェナゾール など
神経の痛みを抑える薬	<ul style="list-style-type: none"> 皮膚症状がよくなっても神経の痛みが残る場合などに使われる(主な薬)メチコバル、リリカ、テグレートール、ノイトロピン、メキシチールなど

带状疱疹は見た目が「虫さされ」や「かぶれ」などに似ているため、带状疱疹だと気づかず、自分で虫刺されの薬など(ステロイドなど)を塗ってしまうと、症状が悪化してしまいます。痛みなどいつもと違うと感じたら、皮膚科を受診しましょう。ウイルスを抑える薬を飲むことが中心です。重症の場合は、入院して点滴で治療する場合があります。

【参考文献】 1) グラクソスミスクライン株式会社: ヘルペス情報サイト [herpes.jp] <http://herpes.jp/index.html>